

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名

【 熊本県 】 熊本県立松橋支援学校

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	生徒 51 名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (講演：ロングホームルーム、実技：体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高める。
5 取組内容	<p>パラリンピアンによる講演会及び実技指導</p> <p>平成29年11月17日（金）に本校にて、道下美里氏（ブラインドマラソン：リオデジャネイロ大会銅メダル）の伴走者である堀内規生氏を迎え、講演会及び実技指導を行った。</p> <p>(1) 講演</p> <p>『魔法の絆（ロープ）』という題で行われた講演では、堀内氏が伴走者になった経緯、ブラインドマラソンにおける伴走の役割やルール、伴走を行ううえで難しい点、工夫している点、そして伴走を行うことを通して学んだことなどについてお話いただいた。さらに、道下選手を特集した動画や実際にリオ大会のときの試合の動画を流しながら、堀内氏が道下選手の伴走を行う際に普段から心掛けていたりすることや伴走を行うときのポイントについて説明いただいた。</p>



	<p>(2) 実技指導</p> <p>伴走の実技指導では、2人組みで、1人がアイシェードをしてブラインドランナー役となり、もう1人が伴走者となり、ロープを持って練習を行った。校庭にある段差やカラーコーンを使って、コースをつくり、そのコースを歩いて1周することからスタートし、少しずつスピードを上げていく練習を行った。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>講演内容からみた成果</p> <p>① 仕事をしながら伴走者としてのトレーニングを行うために、毎日4時半に起きて練習を行っているというお話しを通して、自分の目標を達成するためには、規則正しく生活すること、日々努力することなどが大切であることを学んだ。</p> <p>② 伴走者の役割は「目の代わりになること」であるが、そのためには、普段からコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことが重要である、というお話しから、仲間を大切に信頼関係を築くことの大切さを学んだ。</p> <p>実技指導からみた成果</p> <p>③ ブラインドランナーの体験を通して、盲目の方の世界を体験した。</p> <p>④ 伴走者の体験を通して、盲目の方に対するサポートの仕方の難しさを体験した。</p> <p>最後に、質疑応答を行った。ここでは、生徒から堀内氏が伴走者を続ける理由や盲目の人が秀でていると感じる能力についての質問がでた。パラリンピックだけでなく、障害者や障害者を支える人に対する生徒達の興味が深まった。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>講演の一部を、堀内氏と本校の教員の対談形式で進めたことで、より生徒の実態に合わせた内容となり生徒の理解が深まった。また、実技指導では、教員も一緒に参加することで、安全面への配慮をするとともに、気温が低い環境の中でも、授業を盛り上げることができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>継続的に取り組んでいくための方策。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>未定。</p>